

平成20年度

名古屋大学大学院情報科学研究科

博士課程（前期課程）

計算機数理科学専攻
情報システム学専攻
メディア科学専攻
複雑系科学専攻
社会システム情報学専攻

学 生 募 集 要 項

名古屋大学大学院
情報科学研究科

平成20年度 名古屋大学大学院 情報科学研究科博士課程（前期課程）学生募集要項

平成20年度本研究科博士課程の前期課程（修士課程として取扱う課程）に入学を志願する学生を下記により募集する。

1. 出 願 資 格

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者及び平成20年3月31日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第68条の2第4項第1号の規定により学士の学位を授与された者及び平成20年3月31日までに授与される見込みの者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び平成20年3月31日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び平成20年3月31日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (8) 平成20年3月31日までに大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程若しくは我が国において外国の大学の課程（その修了者が学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
(注) 受験資格(8)により出願する者は、9頁の「受験資格(8)により出願する者について」を参照すること。
- (9) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成20年3月31日までに22歳に達する者
(注) 受験資格(9)により出願する者は予め平成19年6月14日（木）までに本研究科に照会すること。

2. 募 集 人 員

計 算 機 数 理 科 学 専 攻	21名
情 報 シ ス テ ム 学 専 攻	21名
メ デ ィ ア 科 学 専 攻	17名
複 雑 系 科 学 専 攻	32名
社 会 シ ス テ ム 情 報 学 専 攻	15名

いずれの専攻の募集人員もITスペシャリストコース（研究科共通）分を含む。同コースへの配属人数は、情報システム学専攻からは10名程度、その他の専攻からはそれぞれ2名以内とする。ITスペシャリストコースについては、10頁を参照すること。

3. 願書受付期間

平成19年7月12日(木)から平成19年7月19日(木)

ただし、計算機数理科学専攻志願者で口述試験を希望する者については、下記のとおりとする。

平成19年6月20日(水)から平成19年6月26日(火)

受付時間は、9時から16時まで。(12時から13時は除く)

4. 出願書類

全員が提出する書類

- (1) 入学志願票（本研究科所定の用紙に記入したもの）
- (2) 受験票，写真票（本研究科所定の用紙に記入したもの）
- (3) 志願理由書（本研究科所定の用紙に記入したもの）
- (4) 履歴書（本研究科所定の用紙に記入したもの）
- (5) 領収証書・領収証書（控）（本研究科所定の用紙に，氏名のみ記入のこと）
- (6) 返信用封筒2通（受験票送付用，連絡用）
本研究科所定の返信用封筒2通に出願者本人の受信場所・郵便番号・氏名を明記して，提出すること。なお，受験票送付用封筒には350円切手を貼付すること。
- (7) 宛名シール（本研究科所定の用紙に記入したもの）
- (8) 卒業（見込）証明書又は出願資格を証明する書類
- (9) 成績証明書（最終出身大学作成のもの）
- (10) 入学検定料（30,000円，郵便普通為替[指定受取人住所・氏名欄は記入しないこと]で納付すること）

参考資料として提出することが望ましい書類

- (1) 卒業論文等，本人の研究能力を示す資料がある場合は，それらを1部（コピーでよい）及び必要に応じてその概要を1部
- (2) 外国人留学生で日本語能力試験を受験したことがある者は，合格証又は成績通知書のコピー。
複写したものを提出する場合は，「これは原本に相違ありません」と記入し，署名，押印すること。
- (3) 英語検定試験（英検・TOEIC・TOEFLなど）の資格をもつ者は，合格証又は成績通知書のコピー。
複写したものを提出する場合は，「これは原本に相違ありません」と記入し，署名，押印すること。合格証又は成績通知書の有効期限は，平成16年4月1日以降受験分とする。

該当者のみ提出する書類

- (1) 計算機数理科学専攻を志望する出願者のうち口述試験を希望する者は，口述試験の受験希望調書（本研究科所定の用紙に記入したもの）と，学生便覧等，卒業要件と卒業必要単位数の分かる書類（コピーでよい）（学内からの受験者は提出不要）
- (2) 外国人の志願者は市区町村長の発行する外国人登録原票記載事項証明書を提出すること。
ただし，日本国永住許可を得ている者は，提出を要しない。
また現在海外に在住している者は国籍及び在留資格を確認できるもの（例えばパスポートの国籍と在留資格が記載されている頁の写し）を提出すること。
- (3) 官公庁，会社，団体等に在職中で入学後も引き続き在職する者は受験承認書を提出すること。
（様式は随意）

5. 出 願 手 続

志願者は、出願書類を取りそろえ、本研究科所定の願書送付用封筒に入れ、情報科学研究科教務学生掛に提出または郵送すること。

注意事項

- (1) 出願書類を提出する場合は、なるべく本人が持参すること。
- (2) 出願書類を郵送する場合は、書留郵便とし、平成19年7月19日(木)(ただし、計算機数理科学専攻の口述試験志願者については平成19年6月26日(火))16時まで**に必着する**よう情報科学研究科教務学生掛あて送付すること。
- (3) 受験票は、郵送で本人に交付する。
- (4) 出願書類に不備のある場合は受け付けないので留意すること。
- (5) 出願手続き後は、書類の変更は受け付けない。また、入学検定料の返還も行わない。

6. 選 抜 方 法

6.1 選抜方法の概要

選抜の方法は、右図に示すように、専攻により異なる。ただし、ITスペシャリストコースを志望する者は筆記試験を受験しなくてはならない。

A. 情報システム学専攻、メディア科学専攻、複雑系科学専攻、社会システム情報学専攻

入学者の選抜は、「筆記試験と口頭試問」の成績並びに、その他に提出された書類による総合評価で行う。

B. 計算機数理科学専攻

入学者の選抜は、「口述試験」あるいは「筆記試験と口頭試問」の成績並びに、その他に提出された書類による総合評価で行う。

出願者の内、「大学在籍4年目で、3年次終了までに卒業必要単位の3/4以上を取得していて(随意・教職科目は含まない)、3年次終了までに取得した単位の5割以上において成績が優(あるいはA)である」者は、「口述試験」の受験を希望できる。希望する場合は、**口述試験の受験希望調書**を出願時に提出する。希望者の中から、「口述試験」を受けることができる者(有資格者)が選抜され、有資格者は「口述試験」を受験する。「口述試験」に合格すれば、「筆記試験と口頭試問」を受ける必要はない。また、「口述試験」に不合格の者は「筆記試験と口頭試問」を受ける。

有資格者の選抜は、「口述試験」実施可能最大数を超えない範囲でなされる。そして選抜の結果は、希望調書提出者全員に対して、受験票送付時に通知される。また、「口述試験」の合格者数は若干名である。

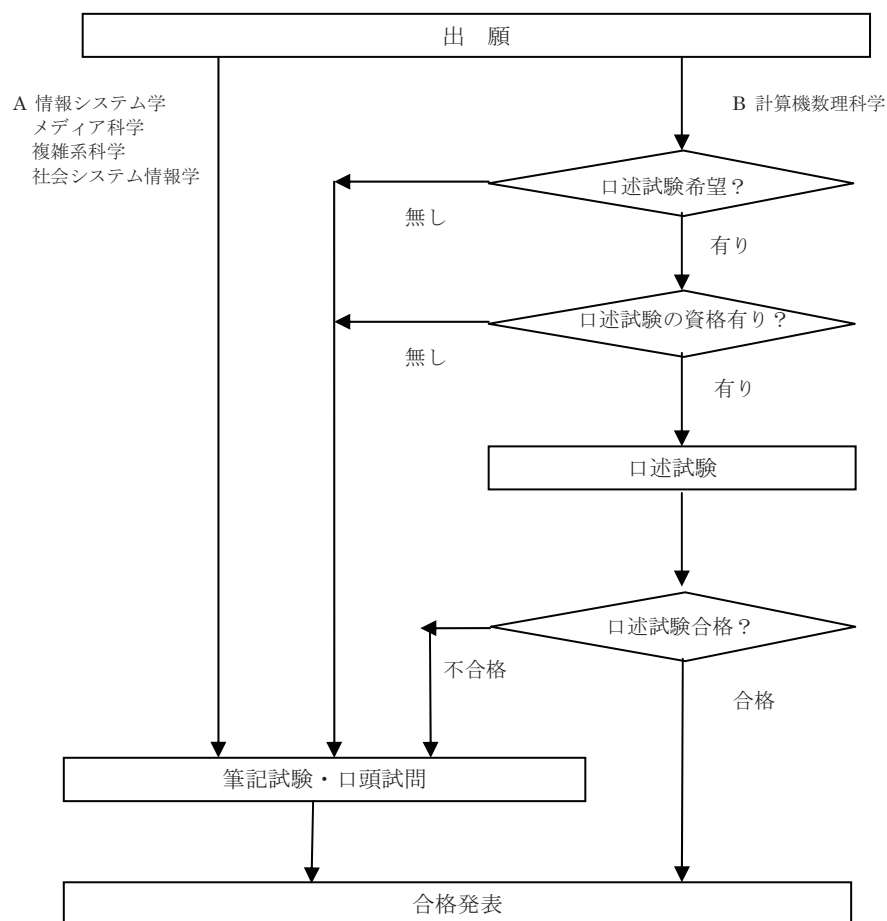


図 入学者選抜の概要

6.2 筆記試験における英語外部試験成績の採用

英語外部試験 {TOEIC (公開テストに限る), TOEFL-PBT(ペーパー版 TOEFL), TOEFL-CBT(コンピュータ版 TOEFL), TOEFL-iBT (次世代 (インターネット版))} の成績を提出した者については、その成績を変換した英語の成績と、研究科入試における英語の成績とを比較し、良い点を英語試験の最終成績とする。なお、研究科入試の英語を欠席した場合は、外部試験の成績にかかわらず、「欠席」の扱いとなる。

なお、下記の表は The Educational Testing Network Service のホームページにある変換表などを参考に作成したものである。

TOEIC	TOEFL-PBT	TOEFL-CBT	TOEFL-iBT	変換後の成績
600-605	505-506	178	63	40
656-660	525	194-195	70	50
706-710	542-543	207	76	60
753-757	558-559	220	83	70
798-802	574-575	232	90	80
842-846	589-590	243	96	90
975-990	636-677	270-300	111-120	100

6.3 選抜方法の詳細

- (1) 口述試験，筆記試験及び口頭試問は，下記の日程により行う。
- (2) 試験場所は，当日，情報科学研究科棟（地図参照）玄関に掲示する。
- (3) 試験場へは，試験開始30分前に到着し，係員の指示を受けること。

A. 口述試験 7月14日（土）

一人30分程度で，口述にて下記の科目について試験。その結果は約1週間後に本人に郵送する。

専攻名	試験時間	科目
計算機数理科学専攻	12:00～	数学，計算機科学または志望する分野の基礎

B. 筆記試験 8月9日（木）

(1) 英語 10:00～11:00 全専攻 共通

辞書（英語から日本語又は母語への辞書のみ）1冊持ち込み可。ただし電子辞書，和英辞書などの指定外の辞書が一体となった辞書は不可。

(2) 専門

専攻名	試験時間	試験科目 ()内は出題範囲
計算機数理科学専攻	12:30～15:30	線形代数，微分積分，離散数学，計算論，数理論理学，確率論，統計学，数値解析，微分方程式，アルゴリズム設計法，オートマトン理論，プログラミングから10～12問出題し3問を選択して解答する。（注）
情報システム学専攻	12:30～15:30	下記の6科目から3科目を選択して解答する。（注） (1) 解析・線形代数 (2) 確率・統計 (3) プログラミング (4) 計算機理論（オートマトン，数理論理学，離散数学，制御理論） (5) ハードウェア（論理回路，計算機ハードウェア，計算機アーキテクチャ，情報ネットワーク） (6) ソフトウェア（アルゴリズム，オペレーティングシステム，コンパイラ，非手続き型言語，ソフトウェア設計）

専攻名	試験時間	試験科目 () 内は出題範囲
メディア科学専攻	12:30～15:30	下記の8科目から3科目を選択して解答する。(注) 解析・線形代数 確率・統計 プログラミング デジタル信号処理 感覚・知覚(感覚・知覚に関する基本的な知識を問う) 学習・記憶(学習・記憶に関する基本的な知識を問う) 思考・問題解決(思考・問題解決に関する基本的な知識を問う) 認知総合(感覚・知覚, 学習・記憶, 思考・問題解決に関する論理的思考能力を問う。3つの論述式の問題から, 1問を選択して解答する)
複雑系科学専攻	12:30～15:30	下記の分野から約20問出題する中から3問を選択して解答する。(注) 数学の基礎: 線形代数, 微分積分 物理学の基礎: 力学, 電磁気学, 量子力学, 熱統計力学 化学の基礎: 有機化学, 生化学, 物理化学, 量子化学 生物学の基礎: 分子生物学, 分子遺伝学, 分類学, 生態学 地球科学の基礎: 岩石・鉱物学, 地球物理学, 地球化学 情報学の基礎: アルゴリズム, プログラミング, 計算機基礎, 複雑系基礎 人類学の基礎: 環境考古学, 生態人類学, 文化財科学 工学の基礎: 材料力学, 熱流体力学, 計測制御
社会システム 情報学専攻	12:30～15:30	小論文(必須) および下記の11科目から2科目を選択して解答する。(注) 確率・統計 プログラミング データ工学(データベース, 情報管理システム) 知識工学(知識処理, パターン情報処理) デジタル信号処理 システムソフトウェア(オペレーティングシステム, 情報ネットワーク) 電子社会システム(電子政府と地域情報化, WebシステムとCG, 情報技術と教育・ミュージアム) 情報デザイン(情報とデザイン, 視覚的ナラティブ, メディアとアート) 哲学の基礎(哲学史, 科学哲学, 倫理学, 社会哲学, 美学) 論理的思考(記号論理学, クリティカルシンキング) 情報学と社会(情報の編集, 情報と倫理, 情報と芸術) より詳しい試験内容については以下のウェブサイトを参照。 http://www.ss.is.nagoya-u.ac.jp/exam.html

(注) ITスペシャリストコースへの配属を希望する者は, 必ず, 「プログラミング」を選択して解答すること。

C. 口頭試問 8月10日(金)

専攻名	試験時間
計算機数理学専攻	9:30～
情報システム学専攻	9:30～
メディア科学専攻	9:30～
複雑系科学専攻	9:30～
社会システム情報学専攻	9:30～

7. 合格発表

平成19年8月17日(金)正午 情報科学研究科棟玄関に掲示する。なお、郵送により合否を本人宛通知する。

8. 入学手続

入学手続については平成20年3月上旬本人に通知する。手続日は、平成20年3月下旬の予定である。

9. 入学料及び授業料

(1) 入学料 282,000円

(2) 授業料 前期分 267,900円(年額535,800円)

(注1) 入学料は入学手続き時に納入する。授業料は、前期及び後期に分けて、前期にあつては4月、後期にあつては10月に納入する。

(注2) 授業料の納入方法は、前期分については、入学後に配布する「納入依頼書」により、銀行又は郵便局から振り込むこと。また、後期分の授業料からは「授業料代行納付制度」を利用すること。

(注3) 入学時及び在学中に学生納付金額の改定が行われた場合には、改正時から新たな納付金額が適用される。

10. 外国人留学生の志願者へ

- (1) 志願理由書を英語で書いてもよい。
- (2) 筆記試験での便宜

	英語（筆記試験）	専門（筆記試験）
計算機数理学専攻	日本語の英訳の問題には、漢字に読みをつける。 英語から母語への辞書の代わりに英英辞書の利用可	英語での解答可 辞書(1冊)持ち込み可
情報システム学専攻		英語での解答可 専門用語には英訳を併記し、難しい漢字に読みをつけ、和英辞書などの辞書を1冊持ち込み可
メディア科学専攻		英語での解答可 専門用語には英訳を併記し、難しい漢字に読みをつけ、和英辞書などの辞書を1冊持ち込み可
複雑系科学専攻		英語での解答可 辞書(1冊)持ち込み可
社会システム情報学専攻		英語での解答可 専門用語には英訳を併記し、難しい漢字に読みをつけ、和英辞書などの辞書を1冊持ち込み可

※辞書については、電子辞書は不可。

11. その他

- (1) 出願資格、出願書類及び選抜方法等本研究科入学試験に関して不明な点は、あらかじめ問い合わせること。
- (2) 教員の研究内容等については、<http://www.is.nagoya-u.ac.jp/>を参照すること。
- (3) 名古屋大学においては構内への車両の入構規制を実施しているため、受験の際は、公共交通機関を利用すること。
- (4) 受験希望者向け情報(Q&A)が、<http://www.is.nagoya-u.ac.jp/exam-q-and-a.html>に掲載されているので、参考にすること。
- (5) 不合格者のうち希望する者については、科目ごとの試験成績を次の要領により受験者本人に開示することができる。
申請期間 : 平成19年8月27日(月)から9月5日(水)10時から16時 (土日祝日を除く)
申し込み方法: 本大学院所定の「入学試験開示願」の様式により申し込むこと
- (6) 住所・氏名・生年月日その他の個人情報は、入学選抜、合格発表、入学手続き及びこれらに付随する事項にのみ利用する。また取得した個人情報は適切に管理し、利用目的以外には利用しない。

〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院情報科学研究科教務学生掛
TEL 052-789-4721
<http://www.is.nagoya-u.ac.jp/>
E-mail: admission@is.nagoya-u.ac.jp

出願資格（8）により出願する者について

1. 出 願 資 格

平成 20 年 3 月 31 日までに大学に 3 年以上在学し、又は外国において学校教育における 15 年の課程若しくは我が国において外国の大学の課程（その修了者が学校教育における 15 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

2. 資 格 審 査

2.1 提出書類

出願資格（8）により出願する者は、あらかじめ次の書類を平成 19 年 6 月 21 日（木）午後 4 時（必着）までに、情報科学研究科教務学生掛へ提出又は郵送（書留便で封筒の表に「前期課程事前審査申請」と朱書）し、出願資格の有無についての資格の事前審査を願い出ること。

- (1) 事前審査申請書（本研究科交付の用紙に、本人が記載・捺印）
- (2) 履歴書（本研究科交付の用紙に、本人が記載・捺印）
- (3) 学業成績証明書（在籍大学において、学部 3 年前期までのもの）
- (4) 在籍大学の指導教員の推薦書（様式自由、日本語又は英語）

2.2 審査結果の通知

本研究科で資格審査を実施し、その結果は願書受付開始日の 3 日前までに本人宛通知する。

3. 試 験 と 提 出 書 類

3.1 一次選考

提出書類：上記資格審査の結果、「出願資格あり」と判定された者は、募集要項の「4. 出願書類」に記載の書類を出願時に提出する。ただし、全員が提出する書類にある「(4) 履歴書」「(8) 卒業証明書等」「(9) 成績証明書」の提出は不要である。

合格条件：通常の大学院試験において、通常の受験生と同一の問題、同一手続きによる筆記試験および口頭試問において非常に優秀な成績を修めること。

3.2 二次選考

提出書類：入学する年の 3 月 5 日（土日に重なる時はその前日）までに 3 年次の成績証明書を提出する。

合格条件：下記の二つの条件を満足すること。一次選考で合格しても二次選考の条件を満たさなければ入学を認めない。

- (1) 3 年次終了までに卒業必要単位の 4 分の 3 以上を取得していること。
（随意科目は含まない）
- (2) 3 年次終了までに取得した単位の 7 割以上において成績が優（あるいは A）であること。
（随意科目、合否のみで判定する科目等は優の比率の計算の基数に含めない）

名古屋大学大学院情報科学研究科

● 概 要

近年の情報技術の発展は、人間の生活、文化、芸術、科学、経済の広範な領域に深い影響をおよぼしている。また、我々の社会に大きな変化を与えるなど、情報処理と情報通信の両輪に支えられた高度情報化社会が構築されつつある。情報技術革命と呼ばれる今日の様相は、社会構造、社会機構の急激な変化を求め、現代社会においては、情報が社会のあり方を規定し、人間の知的活動を大きく左右するものと認識されている。

情報は人間社会にとって、物質やエネルギーと並び重要なファクターであり、工学、理学、生命科学、人文科学、社会科学、芸術などの幅広い学問分野において、現実社会の現象を抽象化し、それによって認識、理解、伝達することを可能としている。情報技術は、我々の日常を取り巻くシステムの設計、構築、運用のあらゆる側面で必須の技術であると共に、情報そのものを生成・表示、処理・解釈、管理・維持する技術でもある。社会の情報技術に対する要求は一層大きくなりつつあり、情報技術を中心に人間・社会・自然における情報活動を位置づけた情報科学領域の体系を整備・発展させ、その成果を社会に還元することが強く望まれている。

本学においても、このような要請に応えるべく、これまでに情報に関して個々の学問分野で行われてきた教育・研究を統合・連携した「情報科学」を構築することにより、情報の視点で幅広い対象を捉える総合的な学問として、社会の要請に応える教育と研究を推進する必要がある。また、教育の面では、高い意識を持って指導的立場で高度情報化社会の構築を担うことができる人材を育成できる環境を整える必要がある。

このような状況を踏まえ、本学における情報に関する専門性の高い教育・研究を飛躍的に発展させるため、情報科学研究科が平成 15 年 4 月に設置された。

● IT スペシャリストコースについて

1) 設置の趣旨

IT (Information Technology) スペシャリストコースは、文部科学省の「先導的 IT スペシャリスト育成推進プログラム」の一つとして採択された教育プロジェクト「OJL による最先端技術適応能力を持つ IT 人材育成拠点の形成」が設置するコースである。本教育プロジェクトの実施期間は平成 18 年度後期から平成 21 年度までの 3 年半である。この教育プロジェクトの目的は、計算機科学及び情報通信の基礎の上にソフトウェア工学を系統的に修め、最先端ソフトウェア技術に柔軟に適応し、その応用及び技能への転化を可能にする人材を育成することである。IT スペシャリストコースでは、ソフトウェア工学をメタ技術の観点から教授し、それを実際のソフトウェア開発へ適用するメタ技術展開力を、PBL (Project Based Learning) と OJT (On the Job Training) の融合概念と位置付ける OJL (On the Job Learning) により涵養するカリキュラムを提供する。

2) 専攻との関係

IT スペシャリストコースは情報科学研究科の 5 専攻に共通のコースとして設置されている。各専攻の博士課程前期課程の入学試験において同コースを希望し、合格した者が IT スペシャリストコースを選択できる。IT スペシャリストコースの学生の所属は合格した専攻である。IT スペシャリストコースを選択した学生は、同コースの科目を履修し、加えて、所属専攻の指定科目も履修する。

3) 問い合わせ先

研究科Webページ <http://www.is.nagoya-u.ac.jp>をご覧ください。

● アドミッションポリシー

情報科学の持つ学術及び社会への影響力を理解し、その理論・技術基盤を探究し、実践的活用を目指す意欲と基礎学力のある学生を受け入れる。

● 学 位

本研究科の博士課程（前期課程）において、所定の修了要件を満たした者に対しては、修士（情報科学）の学位が授与される。ただし、とくに理由を認める場合には、修士（工学）または、修士（学術）の学位が授与されることがある。

● 専攻の概要

本研究科は計算機数理学専攻、情報システム学専攻、メディア科学専攻、複雑系科学専攻、社会システム情報学専攻の5つの専攻により構成される。各専攻の教員の氏名、連絡先については<http://www.is.nagoya-u.ac.jp/>を参照のこと。

1) 計算機数理学専攻

本専攻では、情報処理の設計、解析、効率化に代表される計算機科学の基礎的分野での教育研究、及び諸現象に対する数理モデルの構築と解析を通して情報にかかわる諸分野での応用を目指す情報数理学の教育研究を行う。

これまで行われていた計算機科学の基礎分野、特にアルゴリズム論、計算量理論、計算モデル解析論、論理的知識論の分野の教育研究、情報科学に関連する数理学、特に代数学の研究とその符号理論あるいは暗号理論への応用、数理論理学と計算量理論、量子計算理論、数理モデルの構築と数値解析法の研究、確率解析とその情報理論などへの応用の分野での教育研究の諸分野は、本研究科での中核をなすものであり、これまで異なる部局において行われてきた計算機科学及び情報数理学の教育研究を本専攻に結集し、より発展的かつ効果的に展開することを目指す。

これにより、本専攻では、情報数理的思考を身につけ、計算機及びそれを用いた情報処理システムの構築に中心的役割を果たせる高度情報技術者及び情報科学の基礎分野の研究者を養成する。

2) 情報システム学専攻

本専攻では、情報技術を利用して社会における利便性、安全性、快適性を向上させる様々な目的にそった情報システムを構築するための最適なハードウェア及びソフトウェアの構成を決定し、それらの設計、開発を目指す情報システム学の教育研究を行う。また、半導体集積回路技術や情報通信技術の目覚ましい発展に対応して、情報システム学の新しい展開を目指す。

半導体集積回路技術の発展により、家電製品や自動車など様々な機器に組み込まれた小型の情報システムが集積システムとして実現されている。また、情報処理機器がネットワークに接続された大規模な情報システムをモバイル環境で利用することに伴い、情報システムを構築するソフトウェアは益々大規模化、複雑化している。このような背景を踏まえ、次世代情報システムの設計と構築に適用できる原理と技術の教育研究を行うことにより、実際の情報システムの設計、構築において指導的な役割を担える高度情報技術者及び情報システム学の発展を担える研究者を育成する。

3) メディア科学専攻

人間の活動は、産業、経済、社会、教育、芸術、医療・福祉、家庭など多岐にわたり、これらの諸相における迅速かつ正確な情報の抽出と表現とに支えられている。

本専攻は、基礎科学、工学、認知科学を基幹として、メディア科学の基礎理論と、その応用による知的システムの創造、及び人間の認知機能の解明を通して、情報化社会の発展に貢献し得る研究者と技術者を養成する。

4) 複雑系科学専攻

自然、社会における複雑系は分子、ニューロン、エージェントなど、情報を伝達、変換、蓄積する能力を持つ多数の要素のネットワークとして構成されており、分散型情報システムとみなすことができる。複雑系の大きな特徴は、このような構成要素の相互作用によって、構成単位の性質からは予期できないような秩序構造や機能を動的、自律的に生み出すことにある。

複雑系科学は、こうした秩序や機能の自己組織化過程を情報処理過程とみなすことにより、普遍的な視座を得ることを目指す。多岐にわたる自然及び人工のシステムを対象とし、理論、実験、計算の方法を総合して多様な対象の中に隠されている普遍的な情報処理原理を明らかにする。

本専攻では、複雑系を解析するための革新的な計算手法を開発する教育研究を行い、従来の要素還元論的方法ではない、モデル系を「つくることによって理解する」構成論的方法を発展させる。また、分散した要素の自己組織化に基づく情報システムをデザインする分散的方法を開拓し、構成論的思考、分散的思考による新しい発想が可能な優れた技術者、研究者を育成する。

5) 社会システム情報学専攻

本専攻では、情報技術の展開により高度に情報化される社会環境において、実世界が有する物理的実体・現象と、仮想世界が有する論理的対象・処理の融合を研究の視点として、人間社会にとって優位な実世界と仮想世界を構成している連携的、相補的に融合可能な環境、機構、機能について教育研究を行う。また、人間の知恵を醸成、創造、育成し、かつ、人間の知恵や創造的行為によって支えられる活動空間の構築に関するパラダイム、モデルが確立することから、情報技術の適用による知識依存型の社会システムの構築、及びそのアーキテクチャの探究だけでなく、情報技術の展開により、社会環境、社会機構に発生する様々な諸問題を評価、考察し、実世界と仮想世界の融合空間における人間の役割や人間社会の構成についても教育研究を行う。

本専攻は、情報化時代に即応できる人材育成の立場から、情報処理教育、情報技術の開発・適用、社会情報システムの機能設計・開発、社会情報環境のための情報ベース、利用者インタフェースの開発・構築等のニーズをより一層求め、社会へのシーズを育てることにより、情報化社会を積極的に支え、発展させる能力を有した人材育成を行う。

平成 20 年度
名古屋大学大学院情報科学研究科博士課程(前期課程)
入学志願票

志望専攻名	専攻	※ 受験番号	
フリガナ			
氏名			都・道 府・県
英字氏名	姓(Surname)	名 (Given name)	(Middle Name)
生年月日	年 月 日生	性別	男・女
出願資格	国立・公立・私立・外国		
	大学 学部 学科 年 月 日 卒業・卒業見込・3年在学中		
出願資格 () により事前の入学資格審査等合格 (該当者のみ)			
勤務先 (在職者のみ)	TEL - -		
現住所	□□□-□□□□ 携帯電話 TEL - -		
連絡先	□□□-□□□□ TEL - -		
Eメールアドレス			

- 注意 1. ※欄は記入を要しない。
2. 志願票, 受験票, 写真票及び履歴書の所定欄に漏れなく記入すること。
3. 英字氏名について, 姓はすべて大文字ブロック体, 名およびミドルネームは最初の一文字のみ大文字で二文字目以降は小文字とすること。
4. 勤務先欄は, 有職者のみ記入し, 所属部課等まで記入すること。
5. 現住所及び連絡先欄は, □□□□マンション又は□□方まで正確に記入すること。
6. Eメールアドレス欄は, 電子メールによる連絡が可能な場合に, アドレスを記入すること。

平成20年度 名古屋大学大学院情報科学研究科博士課程 〔前期課程〕	
受験票	
志望専攻名	専攻
※受験番号	
フリガナ氏名	
生年月日	年 月 日生 男・女
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本票は, 常に携帯し, 入学の手続きが完了するまで保存すること。 2. 本票は, 試験の際に机の上に置いて監督者に見えるようにすること。 3. 本票は, 監督者の請求があれば何時でも見せること。 4. 遅刻した者は, 指定された試験室の監督者に申し出ること。 	

(切り離さないこと)

平成20年度
名古屋大学大学院情報科学研究科博士課程
〔前期課程〕

写真票	
志望専攻名	専攻
※受験番号	
フリガナ氏名	
生年月日	年 月 日生 男・女

写真貼付欄
<ol style="list-style-type: none"> 1. 写真は正面向き半身脱帽3ヶ月以内に撮影したものであること。 2. 全面のりづけすること。 <p style="text-align: center;">(4 cm × 5 cm)</p>

出席確認欄	
英語	
専門	
口頭	
試口 験述	

平成 年 月 日

出願資格(8)による事前審査申請書

名古屋大学大学院情報科学研究科長 殿

名古屋大学大学院情報科学研究科博士課程(前期課程) _____ 専攻

に出願したいので、出願資格(8)により事前審査を受けたく、関係書類を添えて申請いたします。

ふりがな

(志願者) 氏 名 _____ ㊟

現職等(所属機関・部署・職名等, 学生の場合は大学名・身分)

連絡先住所 _____

電話番号 _____

携帯電話 _____

メールアドレス _____

履 歴 書

平成 年 月 日

ふりがな 氏 名 生年月日	昭和 (1 9) 年 月 日生	性別	男 ・ 女
---------------------	-------------------	----	-------------

本籍地	都・道・府・県（外国人は国籍を記入すること）
-----	------------------------

学 歴・職 歴（高等学校等の卒業から空白期間がないよう記入すること。）

年	月	
自 _____ 至 _____	_____	
自 _____ 至 _____	_____	
自 _____ 至 _____	_____	
自 _____ 至 _____	_____	
自 _____ 至 _____	_____	
自 _____ 至 _____	_____	
自 _____ 至 _____	_____	
自 _____ 至 _____	_____	
自 _____ 至 _____	_____	
自 _____ 至 _____	_____	
自 _____ 至 _____	_____	
自 _____ 至 _____	_____	
自 _____ 至 _____	_____	
自 _____ 至 _____	_____	
自 _____ 至 _____	_____	

実務経験等詳細に記入すること。

領 収 証 書

(氏名)	平成 19 年 度	第	号						
	国立大学法人 名古屋大学								
	殿								
納 付 金 額	千	百	十	万	千	百	十	円	
				¥	3	0	0	0	0
ただし、検定料として上記の金額を									
平成 年 月 日 領収しました。									

氏名は本人が記入すること。

(切り離さないこと)

領 収 証 書 (控)

(氏名)	平成 19 年 度	第	号						
	国立大学法人 名古屋大学								
	殿								
納 付 金 額	千	百	十	万	千	百	十	円	
				¥	3	0	0	0	0
ただし、検定料として									
平成 年 月 日 領収									

氏名は本人が記入すること。

口述試験の受験希望調書

計算機数理科学専攻を志望する出願者で、「大学在籍4年目で、3年次終了までに卒業必要単位の3/4以上を取得していて（随意・教職科目は含まない）、3年次終了までに取得した単位の5割以上において成績が優（あるいはA）である」者は、「口述試験」の受験を希望できる。希望者は、本調書に必要事項を記入の上、出願時に提出すること。なお、未提出の場合は、希望なしと判断される。

なお、ITスペシャリストコースは筆記試験の受験が必要である。

希望する者は下記に必要事項を記入すること

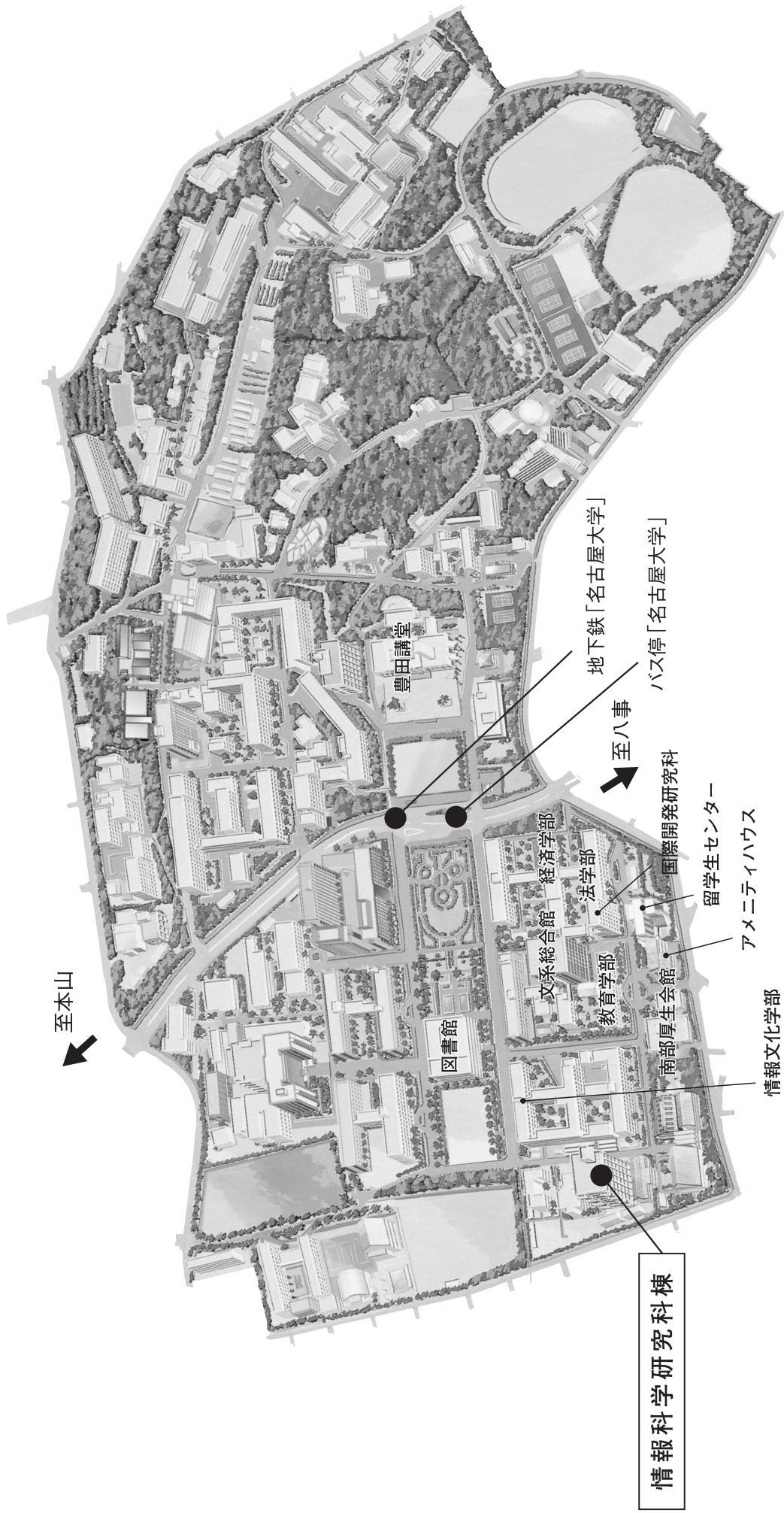
氏名		※ 受験番号	
----	--	-----------	--

所属 大学	所属 学部		
卒業必要単位数			単位
3年次終了までに取得した単位数の単位数 (随意・教職科目は除く)	(A)		単位
3年次終了までに取得した単位の内、 優（あるいはA）の単位数 (随意・教職科目は除く)	(B)		単位
3年次終了までに取得した単位の内、 優（あるいはA）の割合 (随意・教職科目は除く)	$(B) / (A) \times 100$		%

注意) 学生便覧等、卒業要件と卒業必要単位数の分かる書類を一緒に提出すること。

(学内からの受験者は提出不要)

名古屋大学東山地区配置図



地下鉄名城線
「名古屋大学」駅下車
1番出口へ
出口より 徒歩5分